

# 専門分野

老年看護学



## シラバス

科目名	老年看護学総論	単位	1	時間数	15	開講時期	1年次後期	担当者	教員
学習のねらい	超高齢社会を迎え、病院での施設でも看護の対象は圧倒的に高齢者が多い。高齢者を取り巻く環境は、核家族化・独居高齢者の増加、老老介護、認知介護が問題視されている。さらに、寝たきり、虚弱な高齢者を含めて要介護高齢者の増加も社会問題となっている。高齢者の生きてきた社会背景、生活実態、加齢に伴う諸機能の変化、高齢者の人権を守るための保健医療福祉システムを知り、高齢者に対する看護の役割の重要性を学ぶ。								
目的・目標	目的；老年看護の対象となる高齢者を多様な側面から理解する。 目標；1. 老年期の特徴を理解する。 2. 社会構造の変化、高齢化に伴う対象の保健医療福祉の現状と課題を理解する。 3. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化を理解する。								
授業計画	1回 (45分×2) 「老い」とは何か 2回 (45分×2) 超高齢社会の現状 3回 (45分×2) 高齢社会における保健医療福祉制度について 4回 (45分×2) 高齢者の理解に活用できる理論 5回 (45分×2) 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化の特徴① 6回 (45分×2) 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化の特徴② 7回 (45分×2) 【校内実習】高齢者体験 8回 (45分) 筆記試験								
評価方法	筆記試験 (90%)、課題提出状況 (10%) で評価する。								
教科書	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院								
参考文献									
履修要件									

## シラバス

科目名	老年看護援助論 I	単位	1	時間数	15	開講時期	1 年次後期	担当者		教員	
学習のねらい	高齢化率の増加に伴い、あらゆる領域で「老化」の知識なしに看護を実践できない状況であり、家族関係を考えた際にも、高齢者の課題は避けられない。医療体制が病院から地域へとシフトしてきていることを考えると、地域全体で高齢者ケアを考え、生活機能の視点をもって看護を実践していく必要がある。高齢者の加齢的变化を理解した上で、高齢者が健康な生活を意識した行動がとれるように日常生活への援助について学ぶ。										
目的・目標	目的；老年期の対象を生活の観点からアセスメントし、基本的な援助を理解する。 目標；1. 老年期にある対象へのアセスメントを行う視点と留意点を理解できる。 2. 高齢者の生活を支援するための援助を理解できる。										
授業計画	1 回 (45 分×2) 老年看護の役割 2 回 (45 分×2) 生活機能を整える看護 (コミュニケーション技術) 3 回 (45 分×2) 生活機能を整える看護 (生活リズム) 4 回 (45 分×2) 生活機能を整える看護 (清潔) 5 回 (45 分×2) 生活機能を整える看護 (食事) 6 回 (45 分×2) 生活機能を整える看護 (排泄) 7 回 (45 分×2) 生活機能を整える看護 【校内実習】おむつ交換、義歯の手入れ 8 回 (45 分) 筆記試験										
評価方法	筆記試験 (90%)、課題提出状況 (10%) で評価する。										
教科書	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院										
参考文献	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ③										
履修要件	老年看護学総論を履修していることが望ましい。										

## シラバス

科目名	老年看護援助論Ⅱ	単位	1	時間数	15	開講時期	1年次後期	担当者		教員	認知症認定看護師
学習のねらい	<p>高齢者は、症候や症状が非定型性であることで、身体的徴候が捉えにくく、要因が複雑に絡み合っているために慢性的に経過しやすく生活に支障をきたしやすい。加齢に伴う諸機能の変化をふまえ、老年期に見られる特徴的な疾患や症状を学び、検査や治療に伴う看護について学ぶ。</p> <p>また、患者数の増加が見込まれ、国全体の課題となっている「認知症」について、さらに深い知識が必要になる。人の尊厳や倫理的課題、コミュニケーション方法や情報の把握、自己決定など認知症看護について学ぶ。</p>										
目的・目標	<p>目的；老年期特有の健康問題と看護について理解する。</p> <p>目標；1. 高齢者に特徴的な疾患や症状を理解できる。 2. 対象の状態に応じた援助の方法を理解できる。</p>										
授業計画	<p>1回 (45分×2) 高齢者に特有な症候</p> <p>2回 (45分×2) 高齢者に特有な疾患と看護①</p> <p>3回 (45分×2) 高齢者に特有な疾患と看護②</p> <p>4回 (45分×2) 認知症のある患者の看護①</p> <p>5回 (45分×2) 認知症のある患者の看護②</p> <p>6回 (45分×2) 認知症のある患者の看護③</p> <p>7回 (45分×2) 認知症のある患者の看護④</p> <p>8回 (45分) 筆記試験</p>										
評価方法	筆記試験（100％）で評価する										
教科書	<p>系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院</p>										
参考文献											
履修要件	老年看護学総論を履修していることが望ましい。										

## シラバス

科目名	老年看護学演習	単位	1	時間数	15	開講時期	1年次後期	担当者	教員
学習のねらい	老年看護の対象となる高齢者は、多様な経験、価値観、生活行動をもっているため、加齢に伴う心身の変化や疾病の影響に加え、長年の生活習慣からくる価値観や生き方を重視して、何らかの健康問題をもちながらも、その人らしく安全に生活できるような支援が求められる。複数の疾病と加齢が日常生活に及ぼす影響について、看護過程のプロセスを通して学ぶ。								
目的・目標	目的；事例を使って健康障害のある老年期にある人の看護過程の展開ができる。 目標；1. 事例を通して、高齢者に特徴的な疾患の病態生理について理解する。 2. 高齢者に特徴的な疾患の看護について理解する。								
授業計画	1回 (45分×2) オリエンテーション、高齢者の特徴について 事例提示 (心不全) 2回 (45分×2) 看護過程の展開：アセスメント① (個人ワーク) 3回 (45分×2) 看護過程の展開：アセスメント② (個人ワーク) 4回 (45分×2) 看護過程の展開：アセスメント③ (個人ワーク) 5回 (45分×2) 看護過程の展開：関連図、看護診断① (個人ワーク) 6回 (45分×2) 看護過程の展開：関連図、看護診断② (個人ワーク) 7回 (45分×2) 看護過程の展開：期待される成果、看護計画 (グループワーク) 8回 (45分) グループワークの発表会、まとめ								
評価方法	個人ワークの内容 (70%) グループワークの参加状況 (10%) グループ発表 (10%) 課題提出状況・内容 (10%) <p style="text-align: right;">以上を総合して評価する。</p>								
教科書	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院								
参考文献	系統看護学講座 専門Ⅱ 循環器③ 専門基礎 解剖生理学①、薬理学 今日の治療薬 別巻 臨床検査								
履修要件	基礎看護援助論Ⅷ、老年看護学総論、老年看護援助論Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。								

